

新善光寺寺報 北 縁

2017年1月

Vol. 34

ほくえん



年頭所感

お檀家の皆さまにおかれましては、清々しく新年を迎えられたことと存じ上げます。

さて、今年は酉年であります。我が国では、十干と十二支を駆使して年を数えます。また、十二支は方角をあらわすときにも使われます。子は北、良は北東、卯は東、巽は南東、午は南……となります。酉はというと西をあらわします。西というと、私たち浄土宗にとってとても大切な方角です。というのも浄土宗のご本尊である阿弥陀さまは、西方極楽浄土におられるからです。西はお日さまの沈む所であり、一日の“終わり”を意味します。私たちの一生の終焉のさきに、阿弥陀さまがお浄土をお建てくださったのが、西方極楽の世界です。

世の中はなにか目まぐるしく変化しているようです。米国の大統領も変わること……。色々な心配ごとが絶えないこの世の中ですが、やすらぎの大地である西方浄土を想いつつ、今を切に生きてゆきたいと願う新春です。

住職 太田 眞琴



前列左より 松尾一志 太田真海 (副住職) 太田眞琴 (住職) 太田光顯 (別院主管) 野崎幸史
後列左より 駒木根琴生 宗川信章 立花俊輔 石山祐道 堀内和紀

退職のお知らせ



石山 祐道 師

(在職期間 平成7年5月～16年10月、18年9月～28年12月)

この度、平成28年12月をもちまして新善光寺を退職させていただきました。ここ最近、自坊（長万部・善導寺）の住職である父が高齢で、なおかつ入退院を繰り返すようになり、小さな頃からよく知る檀家の方達から「クソ坊主、いい加減帰ってこい」など愛のあるお言葉をいただき自坊に帰ることを決心しました。

「親孝行は生きているときでしかできない」大切な方を亡くされた方々から教えられました。

ご縁をいただいたすべての皆さんにはこれまで数えきれないほどの沢山の思いやりのあるお言葉を頂戴してまいりました。そのおかげもあり、SMAPの番組ではございませんが、20年間お勤めすることができました。

札幌は災害ともいえる大雪で寒さも厳しい冬となっております。ご縁をいただき大変お世話になったすべての皆様のご健康を心から祈念いたしております。

20年間、本当にありがとうございました。合掌

※また、8月のお盆期間には例年通り、皆様のご自宅へとお参りをする予定ですので何卒お願いいたします。



保育園の地鎮式にて
(右から2人目)



相棒の立花師と

仏教講座好評です

昨年4月から始めました仏教講座ですが、主に写経を中心におこなっておかげさまで多くの皆様にご参加いただいております。題材もその都度替えて飽きのこないようにしております。

12月には「数珠作り」をおこない、小さなお子様も来られて和気藹々とした中での開催となりました。

今後も写経を中心に毎月第4土曜日に行いますので、是非お気軽にご参加ください。

2017年は7月に写仏、12月に数珠作り、そしてそれ以外の月は写経をおこなう予定です。



第10回仏教講座 「一枚起請文 写経」

1月28日(土)午後2時開始

参加費 500円で道具は不要です。

2月25日(土)、3月25日(土)、4月22日(土)、5月27日(土)
以降毎月第4土曜日におこないます。

葬儀・法事はお寺で

前号は“お寺活用編”として法事についてクローズアップしてみました。今回はお葬式と法事の後席について色々と事例を示しながら紹介したいと思います。

■お葬式

最近では各地区に民間の斎場ができて、めっきりお寺を使ってお葬式をされる方々が少なくなってまいりました。月参りに伺ったお檀家様とお寺でのお葬式について話をする機会があったので少し紹介させていただきます。

お葬式は絶対、菩提寺（檀家になっているお寺）でするのが一番良いと思います。父が亡くなった時は平成4年で、その時はまだ座布団ということで泣く泣くイス席がある近くのお寺を借りました。そして母が平成14年に亡くなりその時にはイス席になっていたので新善光寺でおこないました。今でも思い出すのは告別式で歌を唱ったことです。太田住職様におそろおそろ尋ねると「石田さんの思うようにして下さって結構です。」とおっしゃっていただきました。そして母の好きだった「椰子の実」と「花」を友人の声楽家に歌ってもらいました。

母らしい見送り方ができたと思っております。亡くなった方のお葬式は一生に一度です。悔いのないようにその方らしいお見送りがかたがあると思います。

学校は校風、会社は社風、お寺は寺風とでもいいでしょうか、その寺風が新善光寺は素晴らしく、いやらしくありません。ある私の知り合いの方も、元々は違う宗派でしたが色々と考えて新善光寺の檀家になったと後から聞いて良かったねと伝えました。

私も自分のお葬式はもちろん新善光寺でおこないます。

石田 泰子様

昨今ではご会葬の方の人数も少なくなってきていますので、新善光寺でもそのようなお葬式に対応できるお部屋がございます。

こちらは北側にある「真珠の間」という部屋で、15～20名様くらいまでならお参りできます。それ以上であればまた別の部屋もございます。



法事後の会食

読経後にお寺で会食をされる場合にどのようなやり方があるか、最近の事例をもとに紹介します。

昨年、「芙蓉の間」に少人数様向けにテーブル席を設け、会食につかっていただけのようにしました。8名様まで対応可能です。



会食スタイルも様々で次の写真はお弁当形式です。2階にある「蓮華の間」を使っています。



またお一人につき一膳という考えでなくオードブルスタイルで皆さんに食べていただくというのも良いかもしれません。



どうでしょうか、参考になりましたでしょうか。またお部屋の使用料はいただいておりますので、どうぞご検討くださいませ。

極樂は実在するか

標題の言葉は、司馬遼太郎（1923～1996）さんの『歴史と小説』の一節です。そのつづきにはこう書かれています。「『仏・極樂は実在するか』と問われたとき、清沢は、信仰は主観的事実である、と答える。」清沢とは、清沢満之（1863～1903）師のことで、師は幕末から明治期にかけて、仏教の近代化に尽力した方です。“主観的事実”とは、どのようなことでしょうか。今回は、法然上人（1133～1212）のお伝記やお言葉からこの主観的事実ということについて触れ、お念仏をより深く味わってみたいと思います。



兼実公しか見ることのなかった頭光踏蓮の法然上人（『四十八卷伝』第八）

法然上人が70代の頃、関白を辞して出家した九条兼実（1149～1207）公は、法然上人と共に浄土の御教えを喜び、お念仏申す人となりました。ある日のこと、兼実公は、法然上人を自宅に招き、数時間にわたり仏教のお話を楽しみました。法然上人をお見送りしようと、兼実公が庭先に出たとき、なんと法然上人の頭には後光がさし、足元には蓮を踏みいただいているではありませんか。この感動を伝えようと、兼実公は側近の二人にこのことを告げますが、何も見ない二人は「なんのことでしょうか」と言わんばかりです。しかしながら、兼実公にとっては、涙が出るほど尊い出来事でありました。この兼実公の体験が“主観的事実”のひとつと言えるのではないのでしょうか。兼実公は、藤原摂関家の長として栄華を極めつつも、政変による失脚、息子の死と、さまざまな憂いをかかえていました。その憂いや悲しみを通して、本当の喜び・本当の幸せというものを求めていたのが、兼実公であったと思います。法然上人の後ろ姿に見た光景は、兼実公が、法然上人一個人を尊敬しているということだけでなく、法然上人を介して真実の世界を感じることができたからこそ、拝することができた事実だったのです。

一枚起請文いちまいきしょうもんのなかに「学問をして念の心をさととりて申す念仏にもあらず」とあります。この一枚起請文は、法然上人が往生される二日前の建暦二年（1212）正月二十三日に書かれたとされる、私たちお念仏者にとって珠玉の名文です。学問とは、客観的に物事を考察することです。どんな分野の学問でも、客観性の欠けた研究は、学問たりえません。学問は、客観性を求められますが、お念仏に関しては、主観性が肝要であるという法然上人のお示しです。つまり、“私の人生”の一大事として、お念仏を申せるかということです。それは、限りある命を“私”自身がいかにか生きるか問い続けながらお念仏申す日々でもあります。

今一度、心静かに、法然上人が迷いの先に見いだされたお念仏のあり方を噛みしめたいものです。

〈文：立花俊輔〉

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑮

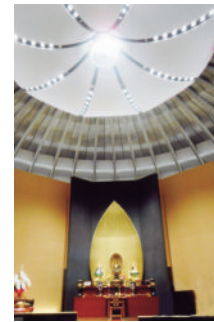
〈新年を迎えて～蓮の花に心を寄せる〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



新しい年が始まった。75歳になって感じる事だが、1年の月日の速さは北海道新幹線、いやロケット並みの速さを感じる。

昨年、法然上人のみ教え・浄土宗を基本として建学された京都にある佛教大学の通信教育課程開設60周年の年で11月、祝賀会出席の為に京都を訪れた。在学中と一緒に学んだ仲間達に再会し、完成したばかりの礼拝堂を見学した。キラキラ光り輝く天井の蓮の花の大きさに驚いた。蓮はインドの人々にとって憧憬的の国花だ。泥の中で成長しながらも泥に染まることなく美しく咲く姿に生命の象徴と捉えていた。



私は平成13年に卒業できた。当大学入学の目的は息子の仏縁によるものだ。以前にも書かせていただいたとおり、息子は昭和54年5月、13歳で自ら命を絶った。「どうして? なぜ?」と問い続けている内に17回忌が近づいてきた。遺骨を離すことができずずっと私達家族のもとで過ごしてきた。毎週土曜日には本人が祖母にリクエストしながら食べないまま逝ってしまったカレーライスを食べ続けた。私の母の勧めもあり納骨する決心をした。私達を残して彼が求めた所を理解したい一念で大学で学ぶ道を選んだ。51歳の春だった。

間もなく、法然上人のお念仏申す大切さに導かれた。「観無量寿経」の一節に“娑婆のこの世に一人の念仏者が現れると、浄土に必ずひとくちの蓮華生ず”の通り、母は念お仏者にさせていただけだ。その瞬間、浄土の蓮のつぼみが膨らみ、色とりどりの花が咲き乱れたに違いない。それまで長い間、心を閉じていた一人の母をも阿弥陀仏は見捨てずに救い上げて下さった。「南無阿弥陀仏」と唱えた者は等しく西方極楽浄土に必ず救う」という制約のお陰様だ。更に、法然上人の説く同一蓮・亡くなった後の再会の約束を知り、心から安心した。この確信が卒業後の出家につながり、太田住職様の弟子となり、「琴生」の僧名をいただき16年になる。

今回、紅葉に誘われて佛教大学近くの曹洞宗の源光庵を訪ねた。多くの参拝者同様、私のお目当ては2つの窓だ。右側の“迷い窓”はお釈迦様の説く生老病死・四苦を示して四角の形。次に左側の“悟りの窓”は純粹な心境変化の望みを示して丸い形。2つの窓の前に座しているとゆったりとした風が亡き息子の思い出を運んでくれた。年頭に皆様の新しい1年が幸多かれと祈ります。

はつひ で おが ころ いちねん
“初日の出 拜む心で この一年”

シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑫

前回「一枚起請文」についてお話したところ、記事として印象に残ったというハガキが、いつもより多かったようです。お勤めは漢文で読むのが一般的なもので、和文で読める御法語はよりわかり易いということなのかもしれません。

法然上人の説いた浄土宗の教えは、「易行易修」といって、「誰にでも、どんな時にでも行うことのできる仏道修行であり、すべての人が極楽浄土へ往生するための教え」です。中身についても一枚起請文の最後の部分「ただ一向に念仏すべし」のとおり、「ひたすらにお念仏なさい」ということに尽きます。最近では、各報道機関で「格差社会」などという言葉をもって社会情勢を揶揄していますが、法然上人の生きた800年前では、格差どころか身分制度があり、仏教も限られた人たちの教えと考えられていました。そんな中、たとえ読み書きができないような人たちでも、「ナムアミダブ」と称えることで極楽浄土へ往生できると説いた教えは画期的だったのです。

そして、爆発的に浄土宗の教えが民衆に支持され広がるにつれ、門弟の中に称名念仏の教えを様々なとらえ方をする者も出てきます。そのようなことも鑑み、法然上人はご自身の御往生の際に、お念仏のみ教えの神髄をこの一枚起請文の中に説かれたのだと思います。

一枚起請文の中には、仏教的な言葉がいくつか出てきます。前回の補足編としてお話ししましょう。

・三心四修

本文のなかで「三心四修と申すことの候は」の部分について、意識は「念仏を称える時の心の在り方や、念仏者としての生活の在り方」としています。

「三心」とは、「至誠心」「深心」「回向発願心」という三つの心の在り方を指します。

「至誠心」とは、「眞実心 (= 偽りなき心)」としています。まことの心、正しき心をもってお念仏なさいということになります。「深心」は「深信」と同じで、自らのいたらなさをわきまえ、お念仏の功德によって必ず救われると深く信じる心のことです。「回向発願心」は、お念仏をはじめとする一切善行の功德を往生へと振り向け、お浄土へ生まれたいと願う心です。

次に「四修」ですが、これは「恭敬修」「無余修」「無間修」「長時修」の四つの生活の在り方を示します。「恭敬修」はひたすらに阿弥陀様や極楽有縁の聖衆等を心底から敬うこと。「無余修」はお念仏行のみを行うこと。「無間修」は絶え間

なくお念仏をすること。そして、これらの三つを臨終まで継続していくことを「長時修」といいます。

本来はこの三心四修を備え、実践しつつお念仏するのが良いわけですが、『お念仏によって必ず往生できる』と思うことができれば、必然的にこれらのことが含まれるのだ。』とおっしゃっています。教義を学問的に捉え理解して実践するより、信心を先としているところが、万人のために教えを説いた法然上人らしいですよ。

・二尊の慈悲

「この外に奥ふかき事を存ぜば、二尊のあわれみにはずれ」とあります。二尊とは、二人の尊いお方、ここでは仏教の開祖「お釈迦さま」と我らが「阿弥陀さま」のお二方のことを指します。

以前にもお話ししましたが、経典はお釈迦さまのお言葉です。その経典の中に説かれている方が阿弥陀さまで、阿弥陀さまのお慈悲はお釈迦さまの言葉を通して我々に伝えられました。

「わが名を称えよ。称えるものはすべからく我が極楽世界へ救い取るぞ。」という阿弥陀さまのご本願は、私たちの信仰の基となるものです。そして、その事を我々に伝えて下さったのがお釈迦さまです。

法然上人は、この阿弥陀さまのご本願の意味することしっかり受け取ってお念仏しないと、二尊の慈悲にそむくことだとおっしゃっているわけです。

・安心起行

本文の終わりに出てくるこの言葉は、先に述べたことに重なります。「安心」は信心の持ち方で、これは先に述べた「三心」ということになります。そして、「起行」とは称名念仏を中心とする修行法のことです。起行は「五種正行」という往生するための正しい行いが定められています。この中に「称名正行」というのがお念仏をお称えすることです。この五種正行については機会があればお話ししたいと思います。因みに『「三心」が出たのに「四修」は起行ではないの?』と思われる方がいると思います。少し専門的な話になりますが、「四修」は実践態度として、「作業」という別の実践体系として位置づけしています。

色々難しいお話にもなりましたが、信心の持ち方、浄土宗の仏道修行の実践の仕方は、この一枚起請文の中に述べたことがすべてであるとおっしゃっています。

さて、次回は「撰益文」についてお話ししましょう。

【新善光寺物語⑮】

東京にもある新善光寺の拠点「霊源寺」とは…①

今回から東京にある別院「^{れいげんじ}霊源寺」について数回に分けて書いていこうと思います。

新善光寺のお檀家さまの中で東京近郊にお住まいの方は、納骨堂があり、春と秋には彼岸法要もおこなっていますのでお参りに行かれたことがあったり、お盆のお参りにも伺っていますので接点があるかもしれません。

霊源寺は東京都品川区の都心から近くまた住みやすいとして現在人気の不動前・五反田エリアにあります。現在、新善光寺住職・太田眞琴が兼務住職をしており、月に1回程度顔を出しています。管理人さんが常駐しており、数年前は新善光寺を昨年12月一杯で退職した石山師も出向という形で行っておりました。

目の前には桐ヶ谷斎場があり、ここは火葬場と斎場がセットになったところで、東京には公営と民間の火葬場がそれぞれあり、また札幌とは違い火葬は先着順ではなく予約制となっています。告別式のあと、バス移動もなくそのままなので、非常に便利かつスピーディーです。霊源寺も斎場として利用でき、目の前に火葬場がありますので人気の斎場となっております。

さて前置きが長くなりましたが、創立年代は不詳で江戸時代初期の僧侶「霊源」和尚が開かれたと言われております。もともこの地域一帯は、古来、戦場ヶ原と称せられ、戦国時代はしばしば戦場となり、戦死や疫病による死者の遺体が散乱していて霊源和尚がこの地帯を行脚され、遺体を集めて浄梵供養していたと伝えられております。“新編武蔵風土記”という書物に

「茶毘所 境内奥ノ方ニアリ、近郷ノ寺院へ送 葬ノ輩当寺へ送りテ茶毘ス」

と書かれており近所の方が利用した火葬場が霊源寺の中に江戸時代からあり、その運営もおこなっていたので「火葬寺」「茶毘寺」そして「無縁寺」とも呼ばれ無縁仏の埋葬と供養をおこなっていました。この運営を前述の桐ヶ谷斎場運営元の東京博善株式会社に譲渡したのが大正の初期です。なぜ、この霊源寺が新善光寺の関係かということ、昭和元年渡辺眞海上人が住職になったことから始まります。

現在につながる新善光寺の歴史にも重要人物として名を残す眞海上人とは一体？（次号に続く）



霊源寺の正面



上空から見た霊源寺 現在、車が停まっている場所には納骨堂が建っている



昨年秋の彼岸法要

お寺の額縁を紹介します⑦

12 新善光寺蔵 法然上人絵伝 第一幅

当山には、法然上人（1133～1212）の生涯を描いた四幅の掛軸があります。今回は、まず第一幅目を紹介いたします。第一幅には、法然上人の誕生から40代半ばくらいまでの出来事が描写されています。拡大している場面は、法然上人が9歳のとき、父・漆間時国公が政敵に襲撃された様子です。その臨終に父は、法然上人に「復讐しようと考えてはならない、誰もが救われる道を求め、出家するがよい……」と遺言されました。この事件が、法然上人をお念仏の元祖たらしめたキーポイントといえると思います。

1月25日の法然上人祥月御命日には、このお軸を掛けて、明照婦人会の皆さんと共に参拝しています。次回に続きます。



すでに得たる^え 心地にて^{こち} 念仏は申すなり^{ねんぶつ もう}



この寺報と一緒に入っている標語ポスターについて解説します。

これは法然上人が、つねに仰っていたと伝えられるお言葉です。「得たる心地」とは、どのような心境でしょうか。東井義雄さんの詩にこうあります。「人生という学校に77年もお世話になって、結局何になったか、醜い汚れたみすぼらしいじじいになった、申しわけないはずかしいじじいになった、でも、やっとおかげさまでお念仏申す以外何もない私にしてください」

お念仏を称えていると、ありのままの自己が浮き彫りにされていきます。それと真正面から向き合うことを通して、本当の幸せを頂戴できるのが、お念仏の尊いところです。この一年もお念仏の中に安穏な年でありますように……

《宮の沢別院から》

あけましておめでとうございます。

本年も1月2日に修正会を厳修いたしました。

当日はお天気も良く、お檀家さんや一般の参詣者の方々が集い、温かい雰囲気の中で行うことができました。

写経体験や修正会祈願法要では、様々な新年の願いを吞龍さまに報告し、晴れやかな法要となったのではないのでしょうか。

そして餅つきでは、大人の方はダイナミックに、子供たちは恐る恐るお餅をついていました。ついたお餅はご本尊にお供えし、みんなでお汁粉やお雑煮にしておいしくいただきました。

来年も行う予定ですので、ぜひご家族で宮の沢別院にお越しください。

また、いつでもご祈願承ります。ご希望の際は別院までお問い合わせください。



《納骨堂のご案内》

現在、宮の沢別院の納骨壇には空きがあります。格調高い仏壇型のタイプや、現代的なデザインを施したタイプもあり、多種多様です。どうぞ、お気軽にお尋ねください。



新善光寺 宮の沢別院
札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目 19-35

TEL 011-668-5110

— お檀家タウンページ ~ともいき訪問①—

Archi J cafe (アーキジェイカフェ) 建築雑誌と住宅模型にワクワクする空間

今回は設計事務所が経営されるカフェに訪問してきました。

場所はサッポロビール園近くの北7条東6丁目にあるマンションの1階、「建築喫茶」という看板が目を引きます。階段を登り、店内に入ると大きなダイニングテーブルがあり左右にもボックス席がありカウンターもあります。本棚には建築雑誌がびっしり、そして住宅模型が沢山並んでいます。

金田博道様にお話しを伺いました。オープンには2015年の7月28日。元々こちらは金田博道建築研究所の事務所として使っていましたが、建築雑誌や住宅模型が沢山増えて、手狭になったので事務所を2階に移し、この1階を皆様に見てもらおうとカフェにしたとのこと。「建築雑誌は昔は折り目がつかないようにピシッとしていましたが、墓場まで持って行くことはできないでしょう。」と話されていました。

また住宅模型は200分の1・100分の1・50分の1という具合にあるので見るだけでもワクワクします。聞くところによると東京にあるお寺の庫裏も設計したことがあるとおっしゃっていました。お忙しい時間にもかかわらず、丁寧にお話しして下さいました。

食事のメニューも充実しており、奥様が腕をふるっています。パスタやサンドイッチなど、また特製土鍋カレーもそそられます。今回いただいたのはガトーショコラとコーヒーです。ケーキはしっとりしていて美味しく、コーヒーはブラジルなど3カ国の豆をブレンドしたもので味わい深いコクがあります。

建築雑誌と住宅模型を眺めながら美味しいコーヒーをいただく、至福の時間を味わいませんか。



Archi J cafe 建築喫茶「Archi J cafe」

札幌市東区北7条東6丁目12番地 CITY-76-II 1階
営業日：火・水・金・土曜日
営業時間：11:30 ~ 16:30
お問い合わせ：011-743-2256



慈啓会から

軽費老人ホーム「札幌市拓寿園」の紹介

拓寿園は昭和50年3月に開設され、今年で40年目を迎えたところです。これまで、180名余りのお年寄りがこの拓寿園で余生を過ごされてきました。

開設当時の屯田地区は蛙の鳴き声のにぎやかな一面の水田地帯だったようですが、その後の急速な宅地化によりすっかり様変わりして今では閑静な住宅街になりました。



軽費老人ホームB型の当園はアパート的な形態を持った自炊型施設です。6畳の居間と3畳の台所のいわゆる1DKの個室になっており、入居者自らが買い物をし食事の支度や身の回りのことは全て自分で行うという他にはあまり例のない施設であります。近年は生協の移動販売車や定例的に食材販売の業者さんが来るようになり、随分と便利になりました。

拓寿園に入居される方々は一人暮らしに不安を抱えていた方などそれぞれ事情を抱え安住の場を求めてこられた方々です。

それらの方々が1日でも長く自立した生活が続けられるよう、「ふまねっと運動」や「健康歩こう会」また、「介護予防教室」「リンパヨガ」など拓寿園では健康面に重点を置いた行事を多く取り入れ、健康増進を図っております。

定員50人の小さな施設ではありますが、他の老人ホームとは異なり家族的な雰囲気の中で生活を営むことができ、低額な利用料で冬も温かく、快適な生活を送ることができます。

自立した生活がお年寄りにとっていかに幸せであり、大切であるかということがあらためて実感できる拓寿園へのご来園をお待ちしております。

拓寿園の入所要件

- ・60歳以上の方
- ・札幌市に1年以上居住していること
- ・身寄りがない又は家族との同居が困難な方
- ・自立して生活を営むことができる方

拓寿園の利用料

- ・4月～10月 単身世帯 1ヶ月 4,900円
夫婦世帯 7,400円
- ・11月～3月 暖房料 上記に加え8,800円



札幌市拓寿園

〒002-0857 札幌市北区屯田7条7丁目1-22 TEL 011-682-1821

社会福祉法人 さっぽろ慈啓会

〒064-0941 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6番51号
TEL 011-561-8291 (代表)、0120-83-8291 (総合相談室)

北縁 なんでも Q & A

阿修羅像や四天王像は各宗派共通なののでしょうか？ 特に浄土宗の教えを象徴する仏像はあるのでしょうか？
(西区のお檀家様)

阿修羅は、元はインドにおける天界の神です。仏教に取込まれた時は、仏法の守護とされました。また、四天王は多聞天、持国天、増長天、広目天のことで、これもやはり仏法の守護とされています。どちらも仏法守護という立場にありますが、ここでの仏法とは「仏のみ教え」という意味なので、宗派色はありません。また、仏像を作成する時も、ある程度は同じ特徴で作られるようですが、制作された意図や時代背景などによってその姿はかわります。

阿修羅像で一番有名なのは、奈良 興福寺の阿修羅像（国宝）ですが、これは三面六臂（三つの顔に六つの腕）のお姿です。しかし、三面四臂（三つの顔に四つの腕）や三面二臂（三つの顔に二つの腕）の像も存在します。

四天王は、邪鬼（天邪鬼）を踏みつける躍動感あふれる姿の像が一般的ですが、有名な大阪の四天王寺のお像は、動きのない直立像になっています。制作された時代背景もあり中国色の強いものになっているようです。

浄土宗の仏像は弥陀三尊と呼ばれる「阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩」のお像。法然上人像、善導大師の両大師像があります。象徴は、無論阿弥陀如来像ですが、阿弥陀様は真宗もご本尊としています。浄土宗の阿弥陀如来像は光背が舟形になっています。



新善光寺所蔵の阿修羅像

慈啓会における病院・老人保健施設・特別養護老人ホームの違いを教えてください。
(東区のお檀家様)

慈啓会は現在「病院」「老人保健施設」「特別養護老人ホーム」「養護老人ホーム」を旭ヶ丘に、「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」を手稲に、「経費老人ホーム」を拓北と菊水に、計8か所の老人福祉施設をそれぞれの用途に応じて運営しています。また老人福祉ではない部分では、啓明地区に保育園を運営しています。

さて、ご質問の回答ですが、特別養護老人ホームというのは、重度の介護を必要とする人が入所する施設（申込は要介護3以上の方となります）。養護老人ホームは、基本的には自立できる高齢者の施設となっています。老人保健施設は、医療管理下のもとで看護や介護を受けつつ、自宅などでの生活が難しい方が最終的には在宅復帰を目指してリハビリなどしつつ生活する施設です。

旭ヶ丘の施設は、病院が併設されているため、施設入所されている方がすぐに医療を受けられる体制がとられています。慈啓会病院では、施設内の患者さんへのケアはもちろん、外来も一般の入院患者さんの受け入れも行っています。予防接種や人間ドックなども行っていますので、ご利用されてはいかがでしょうか？

問い合わせ先は、左ページ下部をご参照ください。

しろいし幼稚園から

12月8日は、お釈迦様がお悟りをひらかれた成道会の日です。この日は、子どもたちがホールに集まり特別に水に浮かべた蠟燭（花あかり）をお供えます。今年は、年長児（5歳児）が蠟をとかしくレヨンで色付けして、花型の蠟燭を作りました。

子どもたちは、親しみを込めてお釈迦様の事を“ののさま”と呼んでいます。そして、ののさまは、子どもたちにとって、いつも空から見守ってくださる大切な存在です。成道会は、ののさまが「みんなが幸せに暮らしていけるようにお約束を考え付いた日」と子どもたちには、わかりやすく伝えています。そして、ののさまとの約束をこれからも守っていくことを、確認する日となっています。



ののさまのお約束

いきものはかわいがりましょう
おともだちとなかよくしましょう
おどろぐはたいせつにしましょう
よいことはすすんでしましょう
わるいことはすぐやめましょう

学校法人新善光寺学園 しろいし幼稚園

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707
Email siroisi-pippara.ed.jp

テレビ取材がありました

昨年12月4日にテレビ北海道（TVh）「ほっかいどう経済ナビ」番組内で新善光寺が映されました。昨年からはじまったガイドツアーの特集で成田山新栄寺と当山の紹介がありました。

放映では“石庭の枯山水紋様作り”体験でしたが、冬期間は“木魚鳴らし体験”となります。今年のガイドツアーは1月7日からはじまっております。

毎週月曜日：薄野ナイトツアーコース（19時～20時半）

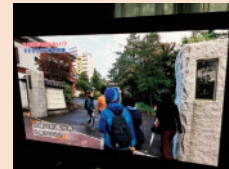
毎週土曜日：お寺de体験コース（13時半～15時半）

【お問い合わせ・ご予約は】

札幌パークホテル マーケティング室

Tel.011-511-3143（ダイヤルイン）※土曜・日曜・祝日を除く10：00～18：00

[E-mail] infosph@granvista.co.jp



編集後記

明けましておめでとうございます。どうぞ、本年も宜しくお願ひします。今年も年間行事予定表のテイストを変えてみました、どうでしょうか？ いつも皆様からいただくご感想ご意見を楽しみにしており、また紙面作りの助けにもなっております。どうぞ、アンケートはがきへのご記入をよろしくお願ひいたします。次号は5月発行予定です。それまではブログやツイッター等のSNSで情報を発信していきます。

(海)

新善光寺

検索